



収益性を意識した受注に注力

入社時の実地研修場所として北海道内の現場に配属されて以来、31年ぶりの北海道勤務。「当時と比べ拠点数が減り仕事量も限られているが、高速道路会社や北海道開発局関連の手持ち工事はある。そ

れらを柱に、北海道新幹線や札幌駅周辺開発など各地のプロジェクト情報を最新版にアップデートしながら、受注獲得に努めたい」と意気込む。キーワードとして挙げるのが「収益性の向上へ」。「今

の継続的な受注。「総合評価方式で得点を獲得するために、いかに工事評点をとって企業、技術者の点数を上げていくかが鍵になる」と話し、管内の各工事担当者が一堂に会する担当者会議を設け、評点を獲得に向けた研究、情報共有を計画している。

仕事のモットーは「現場主義」。「良くも悪くも現場に行き、自分の目で見なければ判断できない。北海道は広いが所属員と直接会ってコミュニケーションをとっていきたい」と意欲を見せる。

までは工事職員1人当たりの出来高をベースとした生産性に主眼を置いていたが、限られた人材でいかに収益を上げていくかという考えに変えていかないといけない。受注段階で収益を意識した管理に取り組んでいきたい」と話す。そのために重視するのは受注の柱となっている官庁工事

（4月1日就任。東京農業大学農学部造園学科卒。埼玉県出身、54歳）

